



YAMATO Leaf archive

「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行なっている様々な自然環境への取り組みの総称です。

さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報を発信していきます。

葉画家 群馬直美の ヤマトビオトープ園の葉っぱたち vol.69 絵と文 群馬直美

戦場の命《カキ》

本社ビルの通用口から外へ出ると、そこには上州名物空っ風が待ち伏せていた。
通りに面した旗竿に取り付けられたロープが、ステンレス製の竿にぶち当たり、
気が狂った教会の鐘の音のようにカランカラン音をたてている。

バタバタバタ、引きちぎられんばかりにはためく旗。

オーバーコートの手もほつぺたの肉も首に巻いたマフラーも髪の毛も、
空っ風にバタバタバタ。

飛んできた砂粒が両目に入り、目が見えない。

口の前の空気が暴風に奪われ、息もできない。

遙か上空から不気味に轟く「ゴォーゴォー」という風の唸り。

荒れ狂うビオトープ園に分け入り、いつものように隈無く見てまわる。

風に飛ばされぬよう、カメラを抱え前のめりになって歩く私はさながら、《空っ風の戦場》カメラマン。

見頃を迎えたシロカガの純白の花が、細枝に咲き誇っていた。

驚いたことに強風で揺れるのは枝ばかりで、
枝に付いた花たちはじっとポーズをとったまま、

凍結したかのように微動だにしない。

花びらも風にひるがえりもせず、真ん中に集まったオシベたちも力強く直立し、
たなびきもへし折れもせず、

風など一切吹いていないかのように、清らかな生命の力を発露している。

一方、ビオトープ園のはずれの柿の木は……。

生命の「せ」の字も見えぬ枯れ木立。

吹き抜ける氷風が、枯れ枝を寒そうに震わせる。

顕微鏡モードにしたデジタルカメラで、震える柿の木の枝先をのぞき込むと……。

揺れ動くファインダーの中で、一瞬、枝先が笑っているような、気がした。

《空っ風の戦場》で出会った命の「い」の字。

枯れ枝の笑顔を見つけて、20倍に拡大して描いた。

肉眼ではよく見て取れないけれど、この地球上に生えている柿の木の枝先に、

ニコニコマークみたいなたくさんの笑顔の命が灯っている、

と考えるとなんだか幸せな気持ちに満たされる。

表紙の絵「カキの冬芽と葉痕×20」

柿の枝先を20倍に拡大して描いたら、
こんな枝顔がにっこり。

- ・ヤマトビオトープ園にて2024.1.25採集
- ・紙（ファブリアーノエキストラホワイト 極細目）/テンペラ
- ・size:280mm×190mm
- ・2024.2.16完成 © Naomi Gumma

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2024年4月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのもの全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の果の美術館』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>